

見つけたよ ちいきのたから④
なるさわはっけい
成沢八景なるさわちょう—水戸市成沢町—



水戸市立飯富小学校

3年1組 薄井 那奈

5年1組 薄井 杏奈

もくじ

- 1 研きゅうしたわけ
- 2 研きゅうの進め方
- 3 研きゅうしたこと
- 4 研きゅうして分かったこと
- 5 感想



1 研きゅうしたわけ

私たちは、岩根町から飯富小学校に通っています。学校につくまでに、藤井川にかかる橋をわたったり、日新坂をのぼったりします。休みの日は、おばあさんの畑で草とりをしたり、キュウリやナスをとる手伝いをしたりします。自転車に乗って、那珂川のていぼうの上や、はたけの中の道を走ったり、川を見に行ったりします。

わたしたちのお母さんは、詩ぎんをやります。鹿島神宮で「水戸八景」を吟じるのを見ました。「水戸」という名前がついているのがふしぎだなと思いました。お母さんに聞いたり、調べてみると、江戸時代、水戸藩第9代藩主徳川斉昭が、水戸藩の中の景色が良い所を「八景」というやり方をまねて8つ選んで決めたことが分かりました。偕楽園の中にある「せんこのぼ雪」を見に行きました。水がキラキラして、きれいな千波湖が見えました。那珂湊のおばあさんの家に行ったとき「みなとの帰はん」を見に行きました。高い場所にあり、海が見えました。魚をとって帰ってくる船の様子だそうです。

それで、私たちは思いつきました。いつも行っている川やはたけのほかに、何かおもしろいところはないか、もっとよく見てみたいと思いました。そして、おもしろいところやふしぎだとおもったところを8こえらんで、斉昭公のように「〇〇八景」をきめたいと思いました。一年生のときは①「岩根八景」、二年生のときは②「藤井八景」をきめました。三年生のときは、一年生になった妹と一緒に探検して③「飯富八景」をきめました。去年、四年生のときは、その前の年の10月にひいおばあさんの岩根町の家が洪水でたたみの上まで川の水が来たことがあったり、新がたコロナウィルスが流行していて夏休みが短かったので、探検はできませんでした。今年は、まだ新がたコロナウィルスが流行っていますが、どうしても探検に行きたかったので、妹といっしょに注意しながらやることにしました。

今年は、飯富小学校で「五区」とよばれる「成沢」を探検することにしました。成沢は、岩根町からはとっても遠いので、新がたコロナウィルスにかからないように人との間をあけることに注意したり、熱中しようにならないようにたくさんの飲み物を用意したりして行きました。



那奈がうつつして描いた砂山先生



杏奈が見て描いた徳川斉昭公

2 研きゅうの進め方

① 自転車に乗って 地区のはじからはじまで見に行く。

私たちは、じょうずに乗れるようになったので、自転車でたんけんしました。細い道、車がたくさん通る道、草のせが高くてもわりがよく見えない道などがあるので、スピードを出さないようにしました。成沢町がどこからどこまでなのかわからないので、お母さんやおばあさん、おじいさんに教えてもらったり、インターネットで検索したりしました。

② 写真をとる。

自転車に乗ってたんけんしながら、めずらしいものやふしぎだなと思ったものがあつたら、カメラで写真をとることにしました。

③ メモする。

たんけんしているとき、何か見つけたりおもしろいと思ったりしたことは、メモすることになりました。

④ 分からないことは聞く。

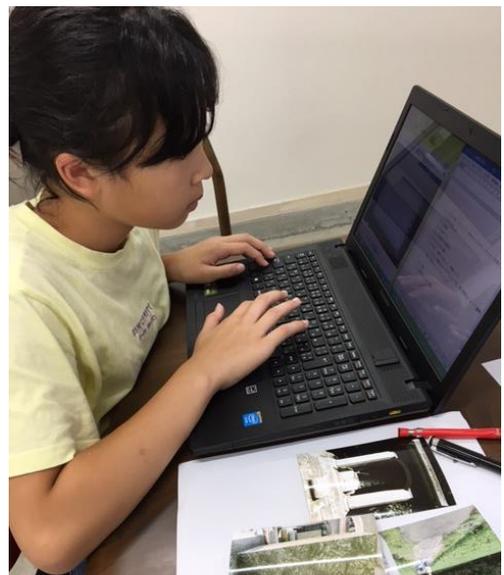
むかしからあるもののことや、何に使うものなのか分からないことは、おばあさんや近所の人、出会った人に聞くことにしました。

⑤ 水戸八景のような名前をつける。

見つけてきたおもしろいものやすてきな場所に、水戸八景のような名前をつけることにしました。名前は、おとうさんやおかあさんにもそうだんにのってもらうことにしました。家族みんなで考えますが、さいごは二人で決めることにしました。

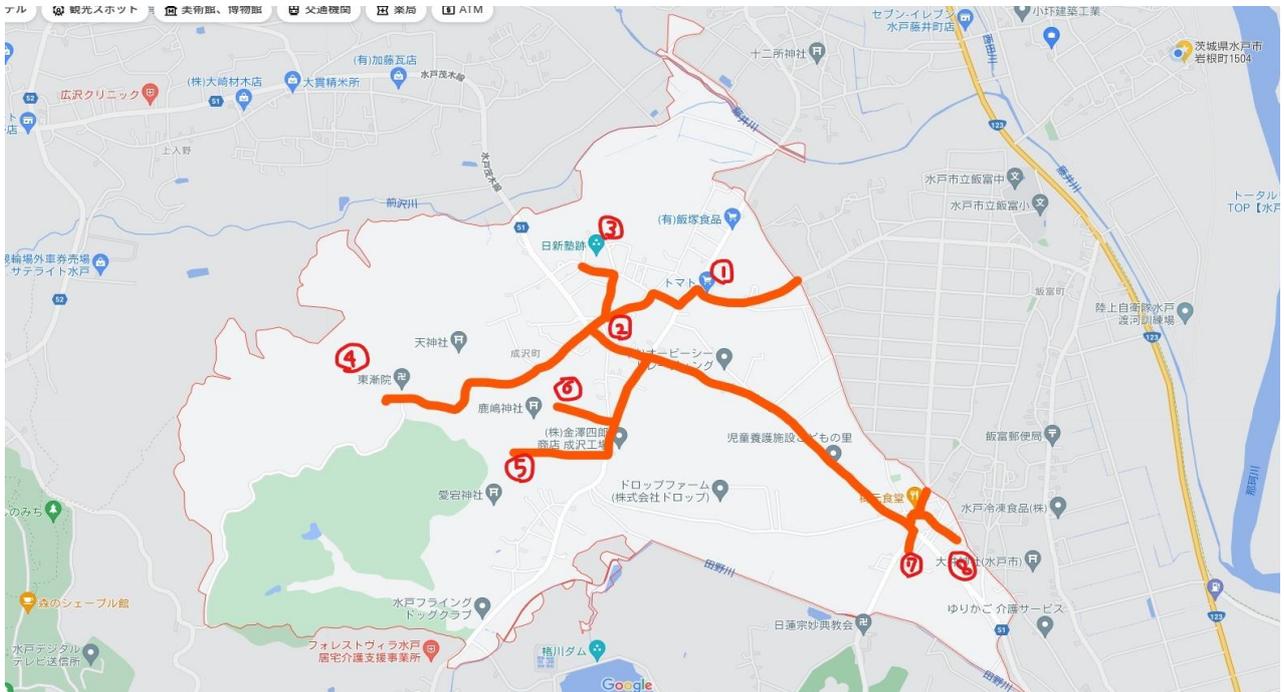
⑥ パソコンを使ってまとめる

学校でタブレットを使って勉強したり、スマートフォンで家族とメッセージのやりとりをしたりしているので文字を入力するやり方を覚えました。いつもは平仮名で入力していますが、夏休みで時間があるので、ローマ字入力に挑戦してみました。



3 研きゅうしたこと：

(1) 探検したところ：成沢町の地図に探検した所を赤線で引く。



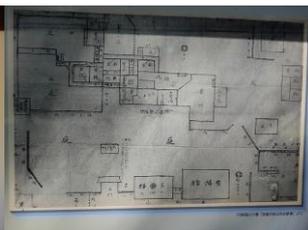
(2) 「成沢八景」をえらんで、水戸八景のような名前をつける。

① 「自動販売機!! 果汁たっぷり おいしいトマト」



探検の一番初めに見つけたのは、トマトの自動販売機です。小松に住んでいるおじいさんの家に行くとき、この大きなビニルハウスは何回も見ていました。トマトを売っていることも知っていました。でも、そのすぐおとなりに、自動販売機があったことは知りませんでした。おこづかいのお金で一回ずつ買ってみました。同じ値段でも、入っているトマトの大きさが違いました。新せんでした。

② 「砂山先生の お話を聞いてみたかった 日新塾」



江戸時代の水戸はとても学問がさかんで、多くの私じゅくが作られていました。なかでも代表的な私じゅくが日新じゅくです。加倉井砂山というとても優れた学者が教えていました。学芸では、読書、習字、作詞作文、歴史、数学、兵学、こう議、論議、輪読、とう論会。武術では、剣術、砲術、馬術、教練を勉強していました。生徒の数は、約30年間で1000人をこえ、水戸藩以外のじゅく生もいました。2015年に日本いさん第1号に認定されました。

③ 「探検の 無事を祈った お地藏さま」



日新塾の近くにお地藏さまがありました。お地藏さまは赤い帽子と前掛けをして立っていました。一尊（お地藏さまの数え方）だけです。両わきには「馬頭観世音菩薩（ぼさつ）」と書かれた石が立っていました。「お地藏さま」は、仏教に関するものです。お釈迦さまが死んでから、56億7000万年後に弥勒菩薩が現れるまでの間、人々を救うと考えられています。けがをしないでたんけんできるようにおさいせんとして、5円玉2枚をあげてお祈りしました。

④ 「山こえて やっと見つけた

なるさわこうせん とうぜんいん 成沢鉱泉と東漸院」



「成沢鉱泉入口」を山の方へ行きました。山道を自転車で上ったり下ったりしました。成沢鉱泉は、天然の温泉です。鉱泉とは、地下からわき出る水で、けがをなおしたり、体や心の疲れをとったりします。日帰りで温泉に入ることができるようです。おばあさんは入ったことがあると言っていました。東漸院（とうぜんいん）がありました。曹洞宗（そうとうしゅう）のお寺です。1533年に江戸氏によって作られました。

⑤ 「大きさびっくり 砂山先生のお墓」



砂山先生のお墓の入口には、大きな石で作られた「贈正五位加倉井砂山先生墓入口」があります。畑の中の道を森の方へまっすぐ進むと階段があります。山を登りながら、さらに左奥へ進むと右側に大きな石の階段があります。階段を上がると今まで見たことがないようなお墓の広さです。広いしき地の中には、加倉井砂山先生と宇良子さんのお墓だけが並んで立ててあります。砂山先生のお墓の石の周りには、砂山先生がどんなにすごい先生かについて約360の漢字を使って書いてあります。

⑥ 「斉昭公 鹿島より神様もらい マムシが守る」



神社へ入っていく入口の右側には「鹿嶋神社」と書かれた大きな石、左側には、神社の説明が書いてありました。「今鹿島というところにあった。戦乱（たたかい）のためしばらく廃社となっていた。江戸時代の終わりごろ、水戸藩主徳川斉昭公によって鹿嶋市にある鹿島神宮から神様を分けてもらった。」ようです。森の中のせまい道を歩いて奥へ行くと赤い屋根の神社がありました。お参りしようと近づいたら、石のわきにマムシが丸くなっていました。おどろきましたが、静かに見ていると逃げていきました。ああよかった。

⑦ 東西に まっすぐ作った 大部平太郎館の土塁



お不動様の近くにある土塁。杉の木が生えていましたが、遺跡の調査があって切られたので、もり上がっていることが良く見えます。ここは、飯富を探検したときに行った「真仏寺」に、稲田から親鸞聖人をお呼びした人、大部平太郎館（家）に関係があるようです。大部平太郎は、東漸院の説明で出てきた江戸氏の家来だったようです。お不動様を見ているとき、近所のおじさんに土塁のことを聞いたら、昔はもっとずっと長く続いていたとっていました。平太郎の家の場所は分からないようです。

⑧ お不動様は不動明王 お顔は怖いが 一人も残さず救います



これが不動明王。もしかしたら、むかしは、こんな仏像があったのかな。

成沢地区でも飯富に近い所にお不動さまがあります。周りにはたくさんのお家があります。近所の方が、「昔は、夏休みには近所の子も達みんな集まって、一緒に夏休みの宿題をやったりしていたよ」と言っていました。調べていると、お不動さまは、仏教の大日如来の化身で「不動明王」のここのようです。「不動明王」は、煩惱（ぼんのう）を抱える最も救うことが難しい人達を力づくで救うために怒った姿をしているそうです。お盆前におばあさんの家のお仏だんのお掃除をしたとき、こわい顔をした仏像がありました。それが「不動明王」だということが分かりました。

4 研きゅうして分かったこと

① 成沢町は、安全な高い場所。

成沢町は、これまで探検した岩根町や藤井町と違って高い場所にあります。成沢町の北側は藤井町、南側は飯富町と隣り合っていました。飯富小学校の5地区の中では、成沢町が一番広いことが分かりました。砂山先生のお墓や鹿島神社はひっそりと森の中に静かにかくれているようにありました。調べてみると場所ははっきりしませんが、大部平八郎館跡、立原民部館跡、神生館跡もあるので、昔の人は洪水の被害のない高台に住んでいたことが分かりました。

② 日新塾は個性をみがく学校。

今回の成沢探検の中で私たちが一番興味を持ったのは、日新塾です。こんな身近に、歴史に残るような場所があるとは知らなかったです。日新塾には遠いところからわざわざここへ来て勉強する人がいました。日新塾のすごいところは、お侍さんでない人も勉強できたこと、水戸の近くだけでなく、遠い会津（今の福島県）からも来た人がいたこと、男の子だけでなく女の子も勉強することができたことです。残念だと思ったこともあります。江戸時代が終わるころ、「天狗党の乱」や「桜田門外の変」という日本人同士の戦いがあり、その時に水戸のお侍さん同志が殺し合うことになって

しまいました。そんな中でも、川崎八右衛門という人が川崎財閥という大きな会社を作ったり、香川敬三という人が明治政府の中で活躍したりしたそうです。水戸の中の戦いがなければ、日新塾はもっと有名になっていたかもしれないです。本当に残念です。もう少し大きくなったら、水戸のお侍さんがどうして争うことになってしまったのか調べてみたいです。

日新塾のことを紹介する本の中に「個性をみがく学校」と書いてありました。きっと自由で楽しい雰囲気だったのかなと想像しました。砂山先生の「日々新しくならなければならない」という言葉の意味はきっと【自分自身のアップデート】だと思いました。これから私たちも毎日少しずつアップデートして進化し、誰かを助けたり、世界にある問題を解決したりすることができる人になりたいです。

③ こんな人になりたいな、加倉井砂山先生。

ひいおばあさんから「文憲先生加倉井君墓碑銘并序」をもらいました。弘道館の近くにできた門を見に行ったときもらってきたそうです。これは、砂山先生のお墓の石に漢字約360字で書かれていることを説明したものです。難しいので、お母さんと一緒に読みました。砂山先生が51歳のときに病気でなくなったということから始まって、小さいころから読書が好きだったこと、いろいろなことをよく知っていたこと、作文は下書きを書かなくても書けたこと、詩が得意で思うように書けたこと、先生の祖先や家族のこと、先生が死ぬときのことなどが書いてあります。

一番心に残ったことは、先生の普段の様子のことです。「先生の普段の様子は、のびのびと楽しんでいるようだ」と書いてあります。「人に対し喜んだり怒ったりしなかったのも、お家にはお客さんがたくさん来て、お酒をたくさん飲んだけどよっぽらったりしないで、穏やかで、人に対してやさしかった。いろいろなことを知っている先生なのに、自分よりも若い人に分からないことを質問することをはずかしいと思わなかった。」人だったそうです。すごいな！こんな人になりたいなって思いました。

5 感想



砂山先生のお墓の入口で休けいしているとき、タマムシが飛んできました。新型コロナウイルスがはやっているので、なかなか外へ出かけることができませんが、自転車に乗って家の外へ出るとやっぱり面白いものに出会えるんだなって思いました。

私たちは、「日新坂」を使って登下校します。「日々新しく」と思いながら上ります。

これで、私たちの通う飯富小学校の学区探検を全クリしました。やった！！そこで、来年はこれまでの探検・研究を生かした、総まとめができるといいなと思います。学校でタブレットをたくさん使っているので、何か楽しくて面白いまとめ方はないか考えようと思います。

探検をした日は、とても暑い日でした。ひいおばあさんは私たちのことを心配して、砂山先生のお墓の所に飲み物を持ってきてくれました。ちょっと大げさですが、冷たい飲み物を飲んだので、私たちは生き返ることができました。元気になって次の探検場所を見に行くことができました。84歳の小唄光子ひいおばあさんありがとうございました♡